

**三重県剣道連盟 70 周年記念**  
**第 49 回三重県少年剣道錬成大会要項**

1. 主 催 三重県剣道連盟
2. 後 援 三重県・三重県教育委員会・中日新聞社（各申請中）
3. 主 管 三重県剣道連盟 伊賀支部
4. 日 時 令和 6年6月16日（日） ※開場 8：20  
受 付 8：20～ 審判会議 8：50 開始式 9：30
5. 会 場 DMGMORI アリーナ（旧 ゆめドームうえの）  
三重県伊賀市ゆめが丘1丁目1-3 （0595-22-0590）
6. 出場資格 三重県在住の小中学生で各支部に所属するもの
7. 試合種目 <団体戦> ①小学生の部、中学生の部、それぞれ各支部3チーム以内とする。  
（道場単位でも可。ただし、必ず支部を通ずること）  
②1チーム選手5名・監督1名で構成し、男女を問わない。  
  
<個人戦> ①小学生3・4年の部（男女を問わない）  
②小学生5・6年男子の部  
③小学生5・6年女子の部  
④中学生男子の部  
⑤中学生女子の部  
各部門において、  
団体戦3チーム出場  
→3名以内とする。  
団体戦2チーム以下出場  
→2名以内とする。
- ※主管支部は団体戦各部門4チーム以内、個人戦は、各部門において団体戦4チーム  
出場は6名以内、団体戦3チーム以下出場は4名以内とする。
8. 試合方法 別紙実施要項の通り
9. 申込方法 別紙申込用紙にて、三重県剣道連盟までお申込み下さい。（FAX・メール可）  
締切 令和 6年5月23日（木） 必着
10. その他
  - 1) 団体戦の選手変更は、受付で申し出てください。立ち順は変更できません。
  - 2) 紅白目印（タスキ）は、各チームで準備し、支部名明記の名札を使用してください。
  - 3) 前年度の優勝チーム、個人は持ちまわりの優勝旗・優勝杯をご持参ください。
  - 4) 本大会は傷害保険には加入しておりません。大会中の傷害等については応急処置のみとします。
  - 5) 所属・氏名につきましては、プログラム・試合掲示・HPに掲載します。
  - 6) 悪天候の場合は急遽延期または中止となる場合があります。連絡は各支部事務責任者にご連絡いたします。
  - 7) 面をつけた時は、シールド又は面マスクを着用してください。
  - 8) 団体戦、掲示用オーダー用紙は三剣連にて準備いたします。
  - 9) 駐車券は発行しませんが、駐車場に限りがありますので、乗り合わせでのご来場にご協力ください。

## 三重県少年剣道錬成大会申込書（小学生の部）

申込責任者 \_\_\_\_\_ 支部 \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_  
 連絡先 \_\_\_\_\_

### <団体戦>

チーム名		
立順	名前	学年
監督		
先鋒		
次鋒		
中堅		
副将		
大将		

チーム名		
立順	名前	学年
監督		
先鋒		
次鋒		
中堅		
副将		
大将		

### <個人戦>

小学生3・4年の部		
名前	学年	
		男・女
		男・女
		男・女

小学生5・6年男子の部	
名前	学年

小学生5・6年女子の部	
名前	学年

### 【申込み送付先】

〒514-0007 津市大谷町152 大谷ハイム1-202号  
 三重県剣道連盟 宛  
 (FAX 059-229-7407)  
 令和 6年5月23日 (木) 必着

## 三重県少年剣道錬成大会申込書（中学生の部）

申込責任者 \_\_\_\_\_ 支部 \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_  
 連絡先 \_\_\_\_\_

### <団体戦>中学生の部

チーム名		
立順	名前	学年
監督		
先鋒		
次鋒		
中堅		
副将		
大将		

チーム名		
立順	名前	学年
監督		
先鋒		
次鋒		
中堅		
副将		
大将		

### <個人戦>

中学生男子の部	
名前	学年

中学生女子の部	
名前	学年

### 【申込み送付先】

〒514-0007 津市大谷町152 大谷ハイム1-202号  
 三重県剣道連盟 宛  
 (FAX 059-229-7407)  
 令和 6年5月23日 (木) 必着

# 三重県少年剣道錬成大会実施要項

主催 三重県剣道連盟

## 1. 大会内容

### <団体戦>

(1) 各チームの初戦は下記の基本判定試合と一本勝負の2試合を行う。

(ア) 試合の内容 a) 切り返し、打ち込み稽古 b) 1本勝負

(イ) 基本判定試合内容の詳細

監督元立ちで、主審の合図により先鋒の選手より下記の基本を続けて行う。

切り返し……………正面打ち→前進して左右面4本、後退して左右面5本→正面打ち、以上2回繰り返す。  
**剣道指導要領参照**

打ち込み稽古……「打ち込み稽古」とは、指導者(元立ち)が与える打突の機会をとらえて打ち込んで打突の基本的な技術を体得させる稽古の方法である。

従って、充実した気力で遠間から大技で、正しく・間合い・姿勢などに留意し基本技・連続技・体当たり・引き技等を繰り返す、打突させる。  
**剣道指導要領参照**

◇時間は、切り返し・打ち込み稽古を含み40秒とする。(各試合場の時計係が計時を行う。)

◇元立ちの竹刀の長さも、選手と同じ竹刀を使用する事が望ましい。

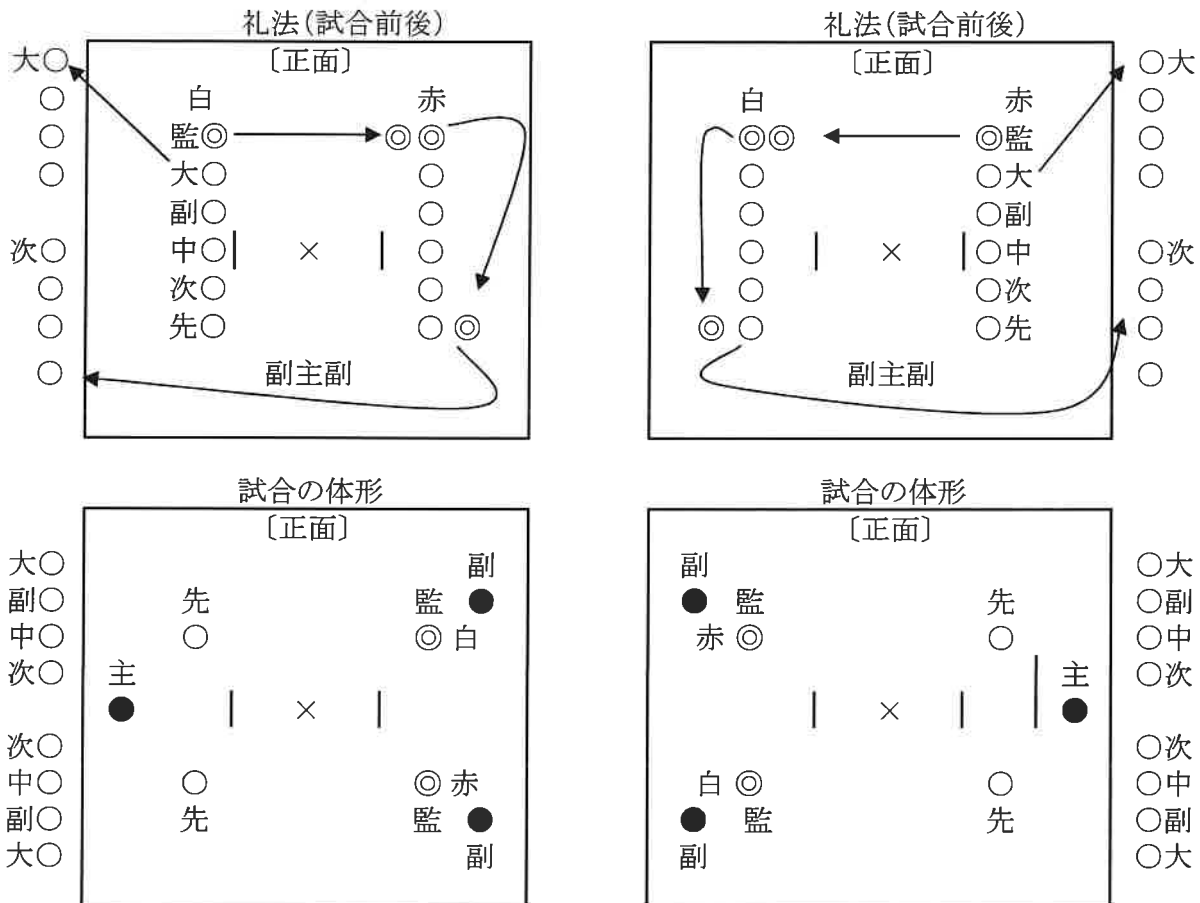
◇切り返し終了後引き続き打ち込み稽古に入る。(元に戻らない)

(ウ) 基本判定試合及び審判要領

a) 試合開始及び終了の際の相互の礼は、監督・選手全員が面、小手をつけ竹刀を持って行う。

b) 相互の礼及び試合の体形は、試合場により下記の通りとする。

### 正 面



c) 試合の開始については、監督及び選手は9歩の間合にて立礼をしたのち開始位置にて先鋒より蹲踞で待機し、主審の「始め」の宣告により40秒で切り返し、打ち込み稽古(元にもどらない)を行う。

d) 主審の「止め」の宣告により打ち込み稽古を終了し、判定を待つ。

- e) 勝敗は、切り返し、打ち込み稽古の総合判定とする。(判定基準は下記の通りとする。)  
 f) 審判員は、主審の「判定」の宣告で勝旗(赤・白)を挙げる。(判定には引き分けは認めない。)  
**主審は勝旗を調べ「何対何、赤(白)の勝ち」と宣告する。**

(イ) 試合要領と勝者の決定方法

- a) 試合は基本判定試合と1本勝負を先鋒→大将の順に行う。  
 b) 1本勝負の試合時間は1分とし、勝負の決しないときには引き分けとする。  
 c) 勝者の決定は基本判定試合・1本勝負の勝者数・総本数の順により決定する。同数・同本数の際は基本判定試合で勝ったチームを勝ちとする。(1本勝負での勝ち本数は1本とする。)

(例)

	先 次 中 副 大					本 数 — 勝 者 数	総 本 数 — 勝 者 数	
	鈴木	高橋	渡辺	加藤	田中			
A 支部	1	②	1	1	②	$\frac{7}{2}$	基本判定試合	基本判定試合
	④		X	④	X	$\frac{2}{2}$		
B 支部		①	X		X	$\frac{1}{1}$	一本勝負	基本判定試合
	②	1	②	②	1	$\frac{8}{3}$	基本判定試合	
	斉藤	中村	山本	小林	佐藤			

- d) 基本判定試合が終われば3本勝負とし、勝負を決する。  
 e) 当該チームが、赤・白どちらになるかはトーナメント戦組合わせの若い番号を赤とする。  
 (2) 基本判定試合終了後の試合は下記により行う。  
 (ア) 全日本剣道連盟剣道試合・審判規則とその細則に準ずる。  
 (イ) 試合は3本勝負、試合時間は小学生は2分、中学生は3分とし、勝負の決しないときは引き分けとする。  
 (ウ) チームの勝敗は、勝者数、総本数により決める。同数の場合は代表者戦を行い、選手は任意とする。  
**代表者戦は1本勝負とし、試合時間は2分ごとに区切る。**  
**延長2回目終了後、5回目終了後、とその後は延長3回ごとに休憩を入れる。**

(3) 基本判定試合判定基準

- (ア) 正しい礼法・着装などができているか。  
 (イ) 充実した氣勢が大きく、正しく、気剣体の一致で打っているか。  
 (ウ) 切り返し  
 (a) 竹刀の振り方は正しいか。  
 (b) 足の運びは正しいか。(退き足が歩み足にならないか)  
 (c) 左右面を打つ角度が約45度になっているか。  
 (d) 「正面打ち」の時一足一刀の間合いから打っているか。  
 (e) 竹刀の打突部で打突部位を正しく打っているか。  
 (f) 「左右面打ち」の時、左こぶしが正中線を通り相手の見えるところまであがっているか。  
 (g) 「正面打ち」の時、両腕が自然に伸び左こぶしが中心(みぞおち)に納まっているか。  
 (h) 最後まで気合いと体勢が崩れないか。  
 (イ) 打ち込み稽古  
 (a) 足さばきが正しいか。  
 (b) 技に適した足さばきができているか。  
 (c) 間合取りが適切か。  
 (d) 技が正確(気剣体一致)であるか。  
 (e) 最後まで気合と体勢が崩れていないか。  
 (f) 残心がなされているか。

<個人戦>

- (1) トーナメント方式による。  
 (2) 試合時間は、小学生2分、中学生3分の3本勝負とし、勝負の決しない場合は小中学生とも、延長戦を勝負の決するまで行う。  
**延長戦は1本勝負とし、試合時間は2分ごとに区切る。**  
**延長2回目終了後、5回目終了後、とその後は延長3回ごとに休憩を入れる。**

2. その他

竹刀の検査は行いませんが、各監督は選手の竹刀の点検を各試合ごとに充分行ってください。  
 特に、ビニールやセロテープを巻いた竹刀は使用させないでください。